

第8回鈴鹿病態薬学研究会



開催日：平成 28 年 1 月 15 日

会 場：鈴鹿医療科学大学（白子キャンパス）

演 題：「細胞分化や炎症反応を制御するタンパク質合成と
mRNA 分解の共役機構」

講 師：藤原 俊伸 先生

近畿大学 薬学部 医療薬学科・生化学研究室・教授

伝令 RNA (mRNA) の分解制御は、外界からの刺激に迅速に応答できるため、細胞の分化や発生などの高次生命機能、また炎症反応など特異的な生体機能において、重要な役割を果たしています。本講演で、藤原先生は、独自に開発された *in vitro* 翻訳解析系を用いたご研究成果である、神経細胞特異的な遺伝子の発現調節（必要なタンパク質が部位特異的に発現するための調節）や炎症性サイトカインである IL-6 をはじめとした炎症に関連するタンパク質をコードする mRNA の分解調節（過剰な免疫応答を抑制するための炎症性サイトカインをコードする mRNA の分解調節）などを例に、タンパク質合成（翻訳）と mRNA 分解の共役機構の詳細について解説して下さいました。さらに、最近のご研究の内容として、一本鎖+（プラス）鎖 RNA ウイルスであるポリオウイルスの感染時に応答する宿主因子の探索の試みなども紹介して下さいました。

本学の教員や学生を含む 40 名を超える参加者があり、外界からの刺激から翻訳と mRNA 分解の共役機構までの経路に関する基礎科学的な質問のほか、本共役機構を標的にした医薬品開発や治療法への応用に関する臨床医学的な観点からの討論もなされ、充実した研究会となりました。

講演会場の風景（6103 号室）

